■平成23年度春の総会の開催(6/1)

□平成23年6月1日(水) 15時20分より

□高知会館

□参加者数　総会及び祝賀会50名
　　交流会40名

本年度の春の総会は、四国支部技術士二次試験合格者祝賀会を兼ねて行われた。

総会及び祝賀会は、東日本大震災を受けて、黙とうに始まり、続いて右城代表幹事より挨拶があり、その中で東日本大震災の視察及び調査（6/17～6/21）に高知県技術士会から４名の方が参加する旨の報告があった。

右城代表幹事の挨拶

続いての祝賀会では、まず、（公社）日本技術士会四国支部の増田副支部長よりご祝辞を賜り、合格者７名（１名遅れて参加)、横山成郎氏[建設、道路、高知市市街地整備課]、宮地修一氏[建設、建設環境、構営技術コンサルタント（株）]、横山貴博氏[総合技術監理、建設、（株）エイト日本技術開発]、野本恭一氏[電気電子、エム・セテック（株）]、岸本靖氏[建設、道路、（株）荒谷建設コンサルタント]、長山学史氏[建設、道路、（株）第一コンサルタンツ]、関山雅彦氏[建設、道路、（株）第一コンサルタンツ]が紹介され、それぞれ自己紹介を行った。この後、小川幹事より（公社）日本技術士会四国支部の紹介があった。

増田支部長より祝辞

合格者による自己紹介

講演会は、「こころの風邪の予防とケア」と題して、近森病院の久保田聰美看護部長、「東北地方太平洋沖地震による宮城・岩手周辺の津波災害と都市部の液状化被害」と題して、高知大学教育研究部自然科学系農学部門の原忠先生より講演を頂いた。

□ 「こころの風邪の予防とケア」近森病院看護部長 久保田聰美

近森病院の久保田看護部長には、こころは、体と同じで、バランスが崩れると風邪をひくということで、その予防とケアについてお話頂いた。以前に比べ、日本ではこころの風邪をひきやすい環境になってきている。メンタルヘルス（心の健康）対策が生まれた背景としては、自殺者の増加（バブル崩壊以降中高年男性自殺者の増加、圧倒的に男性の自殺者が多い)、職場でのストレスによるうつ病の増加等がある。その対策は個人だけでは限界があり、職場組織で対処する体制づくりが重要

であり、周りに気にかけてくれる人がいること、相談に乗ってくれ人がいること等風通しのいい職場環境づくりが大切である。

我々の職種は、デスクワークや残業が多く、ストレスのたまりやすい職種であることから、興味深く、大変参考になるものであった。

久保田看護部長の講演

□ 「東北地方太平洋沖地震による宮城･岩手周辺の津波災害と都市部の液状化被害」高知大学教育研究部自然科学系農学部門 原先生

高知大学の原先生からは、東北地方太平洋沖地震による宮城・岩手周辺の津波被害と都市部の液状化被害について、現地調査時の被害状況の写真をもとにお話を頂いた。

原先生は、地震発生時には東京におられ、その日は鉄道各線が運休となったため、徒歩で帰宅されたとのこと。人的被害を及ぼした津波は発生後 30 分後であった。被害状況見ると押し波、引き波の両方で被害を受けている。また、被害建物を見ると、鉄筋建物の被害は軽微で、これに比べ鉄骨構造物は振動・津波にも脆弱、木造建物は壊滅的との話があった。エネルギー備蓄基地は津波だけではなく液状化も発生したことにより大きな被害となった。昇降式の浮き桟橋は、津波に追随し、桟橋・係留船舶に被害がなかった。防潮堤については杭基礎構造である水門だけが残っていた。液状化においては、直接基礎の建物は傾いていたが、杭基礎の建物は傾斜がなかった。マンホールが 1.6mも浮き上がったところがあった。

上記のように非常に興味深いお話を頂き、あらためて、この東日本大震災を教訓として、迫りくる南海地震ついて早急にハード面、ソフト面について対策を講じる必要性を感じた。

原先生の講演

□ 高知県技術士会総会

右城代表幹事の挨拶に続いて、明坂事務局長より平成 22 年度事業報告と収支決算報告、岡田監事より監査報告があり満場一致で承認された。平成 23 年度事業計画、収支予算についても満場一致で可決された。

また、新入会員 3 名、北澤聖司[建設部門-河川・砂防,建設環境、環境部門-環境影響評価、総合技術監理部門、(株) 西日本科学技術研究所]、嶋本栄治[建設部門-土質及び基礎、(株) 第一コンサルタンツ]、長山学史[建設部門-道路、(株) 第一コンサルタンツ]が紹介され、それぞれ自己紹介が行われた。

新入会員による自己紹介

□ 交流会･祝賀会

平成 22 年度技術士二次試験合格者の祝賀会を兼ねて交流会が行われた。

山本副代表幹事の乾杯で始まり、途中、島田会員より、当会員であった故上森先生の功績についてお話頂き、会員同士の懇親を深め、

森幹事の中締めにより閉会した。

山本副代表幹事による乾杯

交流会の様子

島田会員より故上森先生の功績についてのお話

森幹事による中締め